田迎校区公民館だより
れいすい

第130号
平成21年7月25日
田迎校区公民館
館長　東　旭
編集委員
上田昭蔵　吉住久江
小林省三郎　西　朝徳
☎378-5878
編集責任　吉野元生

# ふるさと創世
## （住み良い町にくらしの工夫）

### 実践項目
校区公民館

一、あいさつ運動
一、明るい地域づくり
一、子供達に夢と誇りを

## 「校区自治協トーク」開催される

身近な校区での問題やまちづくりについて、市長が田迎校区自治協議会の皆様と意見交換を行う「校区自治協トーク」が平成二十一年一月二十三日に田迎地域コミュニティセンターにおいて開催されました。参加者は自治協議会、まちづくり委員会、自治会役員あわせて五十五名の参加を頂きました。はじめに、幸山市長が「まちづくりについて」の講話、そのあと市長との意見交換がありました。

忌憚のない意見交換では、身近な問題が提案され、学びが深められたことは、大変有意義でした。

意見交換の内容は、つぎのとおりです。

（提案者）田迎小分離新設校設置については、一日も早い完成をお願いしたい。

（回答）田迎小学校分離新設校については「分離新設校期成会」を立ち上げ、意見を聞きながら手続きを進め、早い完成に向け努力していく。皆さんのご協力をお願いしたい。

（提案者）街路灯の設置について。

田迎小、託麻中は隣接しており、熊延鉄道敷地の跡を通学道路としている。そこには、自治会で防犯灯の設置はしているが、子どもの安全・安心から市道並に街路灯の設置はできないか。

（回答）防犯灯設置場所の街路灯設置は条件もあることから難しいが、今の防犯灯設置の制度の中で、防犯協会等と連携し、パトロールを実施するなど安全・安心なまちづくりを進めていきたい。

（提案者）ごみ処理について。

ごみ有料化はよいと思う。違反ごみの処理についても検討されると聞いた。違反ごみが出ないためには、戸別収集がよいと思う。ごみ袋四十五リットル35円を以前提案されていた45円にすると市も増収入となり、それを戸別収集にあてると新たな雇用に繋がると思う。

（回答）戸別収集については、これまで何箇所かモデル的に取り組み、その結果ごみの減量の効果はあがっているが、その一方で、収集の時間や経費等がかかることがわかった。今後、更に戸別収集のモデル地域を広げ詳細な調査を行い、また、他都市の調査も参考にしながら最終的に判断することになる。

（提案者）政令指定都市について。

政令指定都市になるとメリットがあると思うが、デメリットについて想定されることは何か。

（回答）区役所の設置は、日常生活に密着した市民サービスの多くが区役所で受けられるようになるという点で市民にとってのメリットになるが、仮に、身近な市民センターなどなくなって、もっと遠い区役所まで行かねばならなくなるとすれば、それはデメリットになりかねない。現在、新たに設置することになる区役所と今の市民センター・総合支所・まちづくり交流室をどう位置付けるかや地域循環バスの運行などを研究中であり、区役所の設置がデメリットにならないようにしていく。

（提案者）田迎校区の発展について。

田迎小は児童数が多くなってきている。田迎小分離新設校設置については、一日も早い完成をお願いしたい。また、交通安全、防犯で巡回をしているが、道路が少し暗い。明るくすると犯罪防止になる。田迎校区の発展策をお願いする。

（回答）地域の課題等について、地域の皆さんと連携を図りながら、今後は、まちづくり交流室や地域の皆さんに対する支援のあり方について見直しを行いながら、地域の更なる発展に繋がるように努力していく。

（提案者）災害時要援護者支援体制について。

災害時要援護者支援体制では、手を上げられる方が少ない。支援を必要とする方をどう掘り起こしたらいいか悩みである。個人情報に関することを、地域の民生委員や関係者に知らせることを考えている。情報の取り扱いについては、民生委員の会合等で十分に趣旨を説明され、徹底されるようお願いする。

（回答）当初の要援護者の見込数は約七千名である。民生委員の方々からも情報提供してほしいとの相談もあったが個人情報審議会へ諮問している所である。

その他、熊本城の問題やごみステーションについても提案がありました。

これからも田迎のまちづくりに協力をよろしくお願いします。

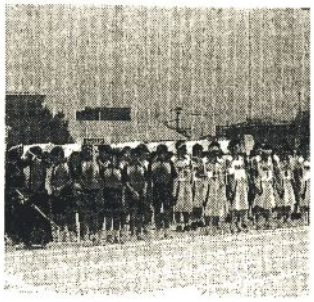
（文責　西田耕造氏）

## 十一年ぶりの体育大会

平成二十一年五月二十日(日)に託麻中学校において、十一年ぶりに体育大会が行われた。

当日は、すばらしい晴天に恵まれ、託麻中学校運動場は生徒と保護者で一杯になっていた。生徒達は四団に分かれて、各競技を行い、応援していた。

これまでの十年間は記録会であったため、生徒達は意欲ある態度での参加がみられなかった様である。



体育大会となって、生徒達は生き生きした態度で参加していた。

特に部活対抗のリレーなどは、四名一組となって参加し真剣な態度で走りを見せてくれた。体育大会のスローガン「託麻旋風ー春風とともに走り抜け」を目標にがんばる生徒達の様子をみて、託麻中学は大丈夫だと感じた。

運動場の周囲で応援していた保護者の皆さんも生徒の様子を見て安心された事であろう。今後も託麻中学校に対して、地域住民の温かい協力が必要と感じた。